



2018.
3月号

社協マスコットキャラクター
ゆりちゃん（本名：国府ゆり）

いしおか 社協だより



「順風満帆」 提供：浅尾 仁之 様（石岡市東大橋）

ずっと住み続けたい街づくり講演会

～みんなで助け合う街 石岡を一緒に考えましょう！～

- 日時 平成30年3月3日（土） 午前10時から正午
- 場所 ふれあいの里石岡ひまわりの館 ふれあいホール
- 内容 【演題】「介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業」について
講師：茨城県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進部
生活支援コーディネーター 高見 文男 氏
※講演前にシルバーリハビリ体操を行います。
- 主催 石岡市社会福祉協議会／石岡市

※プラチナ応援事業対象です。





1月20日(土)社会福祉協議会、いきいきクラブ連合会、ボランティア連絡協議会共催による「第3回石岡市の地域福祉を考える集い」がふれあいの里石岡ひまわりの館で開催されました。

当日は、社会福祉関係者や一般の方々約340名が参加し、式典において、本会が行う事業に多大の貢献をされた法人5社とカラオケ愛好会の皆様に社会福祉協議会長と石岡市長から感謝状が贈呈されました。

第1部では、少子高齢化社会や人口減少問題、地域の活性化や絆づくりなどについて、高齢者や学生、福祉の現場で働く方々9名の意見発表があり、それぞれの立場から地域福祉に対する貴重な意見を聞くことができました。

また、第2部では26組70名による石岡プラチナ歌謡ショーを開催し、歌や舞踊の発表に会場は大いに賑わいました。

感謝状贈呈

石岡市社会福祉協議会の事業に多大の貢献をされた、法人5社とカラオケ愛好会の皆様に感謝状の贈呈を行いました。

・パナソニックエコソリューションズ労働組合様

・ときわ路歌謡愛好会・こだま会様

・日本ナショナル製罐株式会社様



パナソニックエコソリューションズ労働組合様



ときわ路歌謡愛好会・こだま会様

パナソニックエコソリューションズ労働組合様、ときわ路歌謡愛好会・こだま会様、日本ナショナル製罐株式会社様は、多年に渡り、石岡市社会福祉協議会に福祉資金を提供され、石岡市の地域福祉の向上に貢献されました。

- ・パールショップともえ石岡店様
- ・パーラーデルジャン石岡店様
- ・ミカド石岡店様

パールショップともえ石岡店様、パーラーデルジャン石岡店様、ミカド石岡店様は、多年に渡り、石岡市社会福祉協議会に食品類を提供され、石岡市の地域福祉に貢献されました。



パールショップともえ石岡店様

【第1部】意見発表会

保育は子どもに寄り添うことと
子育て支援



子育て支援センターにここに
そとの保育園主任保育士
木場 恵子 様

シルバーリハビリ体操の
普及・拡大に向けて



石岡市シルバーリハビリ体操
指導士会 会長
永井 照男 様

女性の民生委員として



国府地区民生委員
石岡市社会教育指導員(府中地区公民館)
桜井 真弓 様

私の地域貢献



茨城大学教育学部 3年・
子ども学習支援ボランティア
関 沙耶香 様

学習支援ボランティアを
体験して



子ども学習支援ボランティア
斉藤 律子 様

勇気を出して
手を差し伸べよう



茨城県立石岡第一高等学校 1年
浪岩 星乃 様

ずっと
住み続けたいまち



石岡市いきいきクラブ連合会
会長
佐藤 芳夫 様

地域の中でいつまでも



社会福祉法人泰仁会
特別養護老人ホームやさと
主任介護職員
武川 幸子 様

在宅福祉サービスと
ボランティア



在宅福祉サービスボランティア
大石 喜作 様

意見発表内容紹介 No.1

「第3回石岡市の地域福祉を考える集い」で意見発表を行った9名の内、今号では5名の方々の内容を紹介します。

女性の民生委員として

国府地区民生委員
石岡市社会教育指導員 桜井 真弓



私は国府地区で民生委員をさせていた দিয়ে おりますが、現在4期目になりました。大半の方は石岡のお生まれですが、私は縁合って宮城県が多賀城市というところから参りました。多賀城ってどこだっぺ？ご存知の方いらっしゃいますか？平成26年のクリスマスに石岡と災害時応援協定を締結した所で、浅からぬ縁を感じています。あれから30年！この町に来たときは私も元気一杯の20代！高齢者の福祉など遠い未来の事と考えておりました。時は流れご覧の通り、いつのまにか老老介護のような年齢になりました。

実は平成9年に茨城県女性のつばさで石岡市からもご支援頂き、カナダ、アメリカで福祉や教育について研修し、貴重な体験をさせていただきました。その経験から市のために恩返しが出来ないか？と思っていたところにお話しがあり、前任者の男性と代わる事になりました。お仲間に入れていただいた時は地区で最年少でした。その方のように出来るの

か、お引き受けたものの、不安な気持ちでのスタートでした。

現在、地区の仲間は24名で女性は7名です。以前交流した浦安市は7対3で女性が多く活動していました。石岡の高齢化率も30%に届く勢いで、県や全国平均を上回っています。私の持ち区も就労していない独居高齢者の14名中男性は2名だけです。20年前にカナダで目にした光景は正に今の石岡で見られる当たり前の光景です。女性の高齢者が多い事を見ましても、民生委員における女性の役割は大きいのでは、と感じています。このような状況なので、異性宅への訪問は気を使います。前任者に習い、私も玄関先でドアを開けたままお話をさせて頂きます。なりたての頃は、皆様に認知して頂くために、チラシを作って配布もしてみました。季節やその時々々の話題を折り込み、読んでもらえるように飴を付けたり入浴剤を付けたりました。今思うことは、何よりも地域の方から話題を頂き、地区の仲間とのコミュニケーションを取る事が大切だと感じています。見守り・橋渡しする私達が諍いをおこしたり心を病んでいては、民生委員は出来ません。各組織と連携をとり、一人暮らしでも孤独ではない！と思つて貰う事。かつて自分が幼かった頃にお世話になった方には恩返しは出来ません。女性の独居高齢者が多い中だからこそ、地域のパイプ役として寄り添う民生委員でありたいと感じています。いざという時に手を差し伸べられる環境作り。そして橋渡しが出来る状態を作るのが女性民生委員としての私の役目だと思えます。そのためにも、出会えた方々、国府や他地区の仲間との連携も大切にしています。

老老介護の現代では民生委員自身も高齢で助けて

もらう立場にもなっています。親元にいるときよりも長い年月をこの石岡で過ごしています。未来創造のために、若い力はもちろん、高齢だから、年を重ねたからこそその知恵も沢山あります。そんな私を温かく受け入れてくれた家族や地域に支えられ、これからもこの地で笑顔になれる福祉に微力ですが捧げたいと思います。

シルバーハビリ体操の普及・拡大に向けて

石岡市シルバーハビリ体操指導士会
会長 永井 照男



最近、超高齢化の問題が指摘されています。2025年には「団魂の世代」が全員75歳以上になり、超高齢化のピークを迎えます。また、2040年には、高齢世帯の40%が一人暮らしとなり、身近に頼れる人がいない高齢者の増加が社会制度にも大きな問題を与えられています。いずれも、医療・介護・福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが壊れるとも指摘されている問題です。

一方、石岡市も同様に高齢化率は平成26年時点で29.1%（全国平均26%）と14年前から約10%増加です。人口は、平成30年1月で約76000人となっており、平成37年（2025年）には約69000人と推計しています。人口は減少し65歳以上の高齢者は増加するというまさに超超高齢化社会を迎えるのではと危惧されているのが実情かと思われま

このような超高齢化社会の到来予測から、茨城県では「今後は専門家や行政の力だけでは超高齢社会を乗り越えられない」との認識のもと、平成17年から全国に先駆けて、介護予防事業を普及するための「シルバリーハビリ体操指導士」の養成事業を開始しました。現在までに約8000名の体操指導士を養成し、年間の参加延人数は約60万人となりました。10年を経過した時点でこの活動を検証したところ、指導士が増え、活動が多ければ、軽度要介護者「要支援1・2、要介護1」の認定の割合が減ることが証明され、私達の活動の励みになっています。

では、シルバリーハビリ体操についてご紹介します。この体操は、県立健康プラザの管理者で且つ、医学博士でもあり、特にリハビリテーションの専門家であります「大田仁史」先生が考案したものです。具体的には、「関節の可動範囲を維持拡大するとともに、筋肉を伸ばすことに主眼をおいており、立つ、座る、歩くなどの日常生活を営むための動作の訓練を目的に作られています。そのため、この体操は、「何のために、どの筋肉を使い、どの関節をどのように動かしているかを明確にしており、私達指導士は、多くの時間をかけ、108の解剖運動学の専門用語や92種類の体操を覚えて各教室で実践指導しているところです。

この体操は、別名「介護予防体操」と言っております。介護予防とはどういうことかと言いますと、できるだけ介護を受ける状態にならないよう自助・互助の努力をすること。また、たとえ介護を受けるようになって、できるだけその進行を抑え、最後まで人間らしくあるように支えること。と言われており、健康でいきいきと生活を送れるよう健康余命

を伸ばすことと生活の質の向上を図るために支援することだと言っています。最後まで人間らしくとは、人間の尊厳を保つという意味で、人の自尊として「できるなら最後まで自分でトイレにいきいたい」という思いがあるとされていますが、これに 대응するには、しがみついてでも20〜30秒立ち、便器に10分程度座っている力が求められます。この体操はこのような最後まで人間らしくありたいという願いに応えられるようにつくられています。そのための体操ですから、私達はシルバリーハビリ体操と言っており、フィットネス体操や元氣アップ体操とは違うものだと大田先生は説明してきました。私達指導士は、この大田先生の考えに共鳴し、全員が無償のボランティアとして活動しています。

では、私達の活動の現状ですが、石岡市は、現在、約130名が活動しており、活動場所は、全部で約65か所（各地区の公民館やコミュニティセンター、市民会館、その他公的施設や自宅など）で実施しています。年間の体操参加者延人数は約25000人、指導士は約4600人。毎月の体操教室実施回数は約110回で、毎日どこかの複数の場所で行っていただいております。

石岡市でスタートしたのが平成18年ですが、地域包括支援センターや在宅介護支援センター、社会福祉協議会のご協力もあり、発足時と比べたら各段に伸展してきました。しかし、まだまだ普及拡大の努力が必要と考えています。

今後も石岡市のプラチナポイント応援制度や社協のミニサロンなどの活用もいただきながら、教室の拡大ができればと思っています。

最後に私の意見ですが、このように将来の超高齢

化社会を考えると、いかに個人が健康余命の延伸に努力しなければならぬかという自覚と行動を促すことができたかと思っています。また、現在各種のボランティア団体が高齢者に向き合って活動していますが、そろそろ限界（高齢化のため）がくるのではと思っています。いまずぐにでも、将来を見据えたしつかりとした体制整備を望みます。

保育は子どもに寄り添うことと子育て支援

子育て支援センターにこころ
そとの保育園主任保育士

木場

恵子



『三つ子の魂百までも』というおなじみの言葉があります。三歳までの環境がその後を決める大事な時期という意味ですが、時々、「三つ子の魂百までもというのに、赤ちゃんのうちから保育園に預けて可哀想に」とか「赤ちゃんの時ぐらいお母さんがしっかり育ててあげなさい」という声を耳にします。

保育園で働く私としては、なぜそのような思われしてしまうのかと考えるのですが、それは、保育園をよく理解していないからだ、ということに辿りつきました。ですから、今日は、保育園がどのようなところなのか、そして支援センターの役割についてご紹介したいと思います。

ヒトが人間に育つには、三つの間が必要だそうです。それは、「時間」「空間」（場所）そして「仲間」です。遊ぶ時間と場所・食べる時間と場所・寝る時間と場所、そしてそこに関わる親や保育士、お

じいちゃん、おばあちゃん等の大人や友達の「仲間」、この三つの間がなければ人間に育たない。いろんな体験を積み重ねながら子供たちは心も体も育っていきます。幼少期には、喜怒哀楽の感情を思い切り出して欲しいものです。そして保育園はそれができる場所でも賑やかです。

ここで一つエピソードをご紹介します。下に弟が生まれた3歳になるAちゃんは暫く前から、嘔吐や腹痛を訴えお休みすることが目立つようになりました。弟を0歳児室で受け入れる時、お母さんに「A

ちゃんの具合はどうですか」と聞いてみると、「夕べ突然気持ち悪いと泣き出したんです。トイレに連れて行っても吐くわけじゃないし…」とお母さん。

夜中に大泣きされては本人も親も大変です。「それは大変だったね。何が原因だと思う？」とお母さんに聞いてみると「気持ちの問題かな？」と返ってきました。実は私もそう思っていたのでいろいろお家での様子やお母さんの大変さや、ついつい上の子を怒ってしまい自己嫌悪に陥ってる話など、いろいろ聞かせてくれて、一緒にAちゃんに対してどうしていくか対応を考えていきました。赤ちゃんのそばでついつい話に熱が入ってしまうと、「ふえーん」と泣き声が。「あ、ごめんね。お姉ちゃんの話ばかりしちゃったね」と顔を近づけ話しかけると、泣いて訴えた5ヶ月の子がしっかりと目を合わせてニコニコしながら声を出してきました。まるで「いいよ。許してあげる」って言っているみたい。でも私とお母さんの話はその後も続きました。話が終わり、お母さんの気持ちも前向きになったところで、側にいる赤ちゃんに目を向けると、私たちに愛想をつかしたように不機嫌そうな表情でそっぽを向いているでは

ありませんか。5ヶ月の赤ちゃんでもこんなにも感情豊かに表現することに、思わずお母さんと笑ってしまい、二人でその子に謝りました。「ごめん、ごめんね。お待たせしました」とマッサージしてあげると、またまた許してくれた様子でニコニコ笑顔を返してくれました。5ヶ月の子どもでもちゃんと感情は育っています。その後Aちゃんはおなか痛いと訴えることもなく元気に登園しています。この様に保育園では、保護者と共に手をつなぎながら子育てしていく姿勢を大切にしています。

ここからは支援センターについてのお話です。そのの保育園の支援センター『にこにこ』は今年で12年目を迎えます。立ち上げの時、研修を受けた中に『なぜ支援センターが必要なのか』という内容の研修がありました。皆さんは、仕事の為、子どもを保育園に預けながら子育てしているお母さんと専業主婦のお母さんとは、どちらが子育てにストレスを感じていると思いますか？調査結果によると、ストレスや子育てに不安を感じているのは専業主婦の方の方が多いそうです。時間に余裕がない働きのながら子育てしているお母さんの方が、ストレスを感じず、かえって子育てを楽しむ余裕があるそうです。それはなぜか？国は着目しました。保育園は子どもが育つだけでなく親も育つ所だと。仕事を終えて子どもを迎えに行く保育園は保育士とだけではなく同じ仕事を持つ親同士の友達ができる。そして、話せる場所があり、時間がつくれる。三つの間は大人にも必要です。だから、お家で子育てしている方々にも保育園を利用してもらうとうと、支援センターが作られました。

子どもは一人では育てられません。市内には、子

育て支援センターの他にも、親子広場として園内を解放している園、児童館や児童センター、子育て世帯包括支援センター等、子育てを応援する施設がありますので気軽に足を運んでください。そして、こ石岡市社会福祉協議会でも子育て応援に携わる取り組みがいろいろあります。わからない点は市のごども福祉課や石岡市社会福祉協議会に聞いてください。そして、一人で子育てしている方がいたらぜひ、声をかけてあげてください。子育てしやすい街は、誰もが住みやすい街だと思います。たくさん笑顔で子ども達と一緒に育てていきましょう。

【三つ子の魂 百までも】です。

勇気を出して手を差し伸べよう

茨城県立石岡第二高等学校1年

浪岩 星乃



毎日のように悲しいニュースを見ている私達。それをどのように感じているのでしょうか。「しょうがない」、
「いつものこと」と、思う人も少なくはないでしょう。しかし、そのような思いで済ませてはいけなと思います。小さな出来事でも苦しむ人を少なくするために、私達にできることはないのでしょうか。

私が小学生の時、友達が言葉によるいじめを受けていました。友達が苦しんでいるにも関わらず、私は「助けたら、今度は私がいじめられてしまうのでは」と自分のことばかり考えて、助けることができませんでした。つまり、見て見ぬふりをしたので

す。私は友達が大喧嘩から飛び降りようとするまで、助けてあげられませんでした。周りの人は面白がって笑っていて、止める人は誰もいませんでした。私は誰よりも必死で止めました。「こんなことになるまで助けなかったのだろう」という悔しさから涙が溢れました。自分のことばかり気にしている、友達がどれだけ苦しんでいたか、どれだけ辛い思いで耐えていたかなど、思ってもいませんでした。あの時、「やめようよ」と一言言っていたら、こんなことにはならなかったかもしれません。「なぜ、こんなに苦しんでいたことに気づいてあげられなかったのだろう」という後悔の気持ちが生まれました。私が気づかないうちに、一人が言い始めた悪口から、クラス全員に言われるいじめになってしまったのです。「見て見ぬふり」をしない。簡単なことに思いますが、実はとても勇気が必要なことなのです。一人が「見て見ぬふり」をせず、助けてあげるだけで、もう一人、手を差し伸べる人が出てくれるかもしれません。大きくなりそうないじめが、小さいままで終わるかもしれません。「見て見ぬふり」をすることは簡単にできませんが、「見て見ぬふり」をしないことは、大変難しいことなのです。しかし、「見て見ぬふり」をしないことで、重大な出来事になる前に止めることができるかもしれません。たった一人、勇気を出すだけで、その勇気に救われる人がいるのです。

あなたの周りに困っている人はいませんか？もし、いるなら、声をかけてあげてください。あなたが気づくことで、助けてあげることができるかもしれないのです。「気づく」ということは、とても難しいことです。しかし、「いつもと様子が違う」と

感じることもあるのではないのでしょうか。そう感じたら、声をかけてみてください。「大丈夫？」、「何かあった？」そうやって声をかけてもらえることで、安心する人がいます。辛いことから解放される人がいます。そのことに気づくことができるのです。もし、自分が悩みを抱えているとき、相談できる人がいないと困るでしょう。誰でも相談相手がいるだけで安心できます。そして、大きな出来事になる前に止めることができるのです。あなたが声をかけることで、不幸な境遇に陥る前に、困っていることを聞いてあげられます。また、弱い立場の人を陥れようとする気持ちを考え直してくれるかもしれません。あなたが「気づく」ことで、相手の未来が変わってくるのです。「見て見ぬふり」をしないこと、相手の様子に気づくこと。これが、私達にできる、周りにいる人を少しでも不幸な状態にしないことだと思います。

私達は全ての人の不幸を消し去ることはできません。しかし、一人一人が相手の立場や気持ちに対して、よく考え、私達の意識を少しでも変えることができれば、この世の中から、悲しい思いをする人を少なくすることができます。弱い立場の人よりも上に立とうとする意識を捨てて、そして、困っている人や助けを求めている人に耳を傾けることで、私達の未来への歩み方が変わってくるのではないのでしょうか。私達が気づくことによって、不幸な境遇に陥る前に手を差し伸べることができたら、毎日のように見る不幸なニュースが、この社会から少しでも減らせるのではないかと思えます。

皆さん、地域や社会を明るくするために、そして、未来のために、困っている人に積極的に手を差

し伸べようではありませんか。そして、明るく、楽しく、笑顔溢れる、住み良い石岡市を創っていきませんか。

私の地域貢献

茨城大学教育学部3年

関 沙耶香



私は、昨年から石岡市社会福祉協議会が行っているひまわり塾のボランティア講師をしております。きっかけは、大学の掲示板で教育に関するボランティアを探していたところ地元石岡市で行われている、このひまわり塾の講師募集の掲示を見つけた。

前々から地元でボランティアをしたいと思っていた私はすぐに参加を決め、現在まで参加させていただいております。はじめは、右も左もわからず子どもたちへの指導もなかなかできず、コミュニケーションもとることができず悔しい思いをすることが多くありました。そのため、自分は教師に向いていないのではないかと悩むこともありましたが、そんなとき先輩講師の方々から学校では教えてもらえない実践的な指導方法や子どもたちとのコミュニケーションの取り方のアドバイスをしてくださり、子どもたちとの会話のきっかけを作ってくださいました。先輩講師の方の支えで少しずつ、まだまだ未熟ですが子どもたちへの指導、そしてコミュニケーションをとれるようになり、ボランティアに行くのが楽しみになりました。昨年中学校3

年生の受験勉強を見させていただく機会がありました。中学校3年生は、受験という一つの人生を決める学年で、まだまだ未熟な私が指導しているのかという戸惑いがありました。はじめはどのように指導していけばいいのか、その個人にあった指導の仕方に悩むこともありましたが、毎日たった数時間一緒に勉強していくうちにどんどん生徒の解ける問題が増えていき、生徒の成長を感じることができました。生徒の成長するその場に一緒にいられたこと、少しでも生徒の成長のお手伝いできたことは私にとって夢をあきらめず教員になろうと改めて決意するきっかけにもなりました。このひまわり塾での経験は、昨年秋季に行われた茨城県内の小学校での教育実習で活かすことができました。子どもたちとの距離やコミュニケーションの取り方、教師としての振舞いなどは、ひまわり塾で講師をしていなかったら身に着かなかったものだと思います。

私は、地元石岡市で将来の石岡市を担っていく子どもたちの成長のお手伝いがしたいと考えています。それが、今まで助けてくださった先輩講師の方々や地域の方々への恩返しになると考えています。また、私は地元石岡について子どもたちに伝えていきたいと考えています。先日大学の授業で石岡市の地域学習について調べる機会があり、石岡のふるさと学習の本が出されていることを知りました。

そこで図書館で借りて読んでみると地元石岡の民話から観光地、歴史まで書かれ、子どもたちが楽しく学びながら石岡市について知ることができるということがわかりました。しかし、子どもたちの多くは社会が苦手です。ボランティアをしていると、「社会つまんない」「きらい」という声を多く耳にし

ます。せっかく、こんな歴史が深くたくさん観光地や産業がある石岡市に住んでいるのもったいないと思うことが多々あります。私自身、石岡について大学に入り授業で調べることが多いのですが、毎回初めて知ることが多く、石岡の歴史の深さに驚いています。子どもたちには、石岡市のことを知ってもらい、次に伝えていくことが求められます。子どもたちに伝える一つの方法として、地域の人から昔の話を聞くという方法があると思います。しかし、この地域の人から話を聞くという機会が減ってしまっているという問題があります。この問題には、核家族化や地域との関わりの少なさが挙げられると思います。そこで、提案にはなりますが地域の人との交流の機会を学校の授業以外でつくり、昔の話を聞いたり、昔の遊びをしたりして楽しく学べることができるようにすれば子どもたちが地域の歴史に興味を持つこともできる一方で、地域とのコミュニケーションの場にもなると考えます。

私は、これからも自分ができることを活かして生れ育った石岡市、地域に感謝の気持ちをもって貢献していきたいと思っています。子どもたちと地域の人を手を取り合って協力していく、すばらしい石岡市になるように私も石岡市民として努力し、貢献していきたいです。



意見発表を行った9名の皆様

【第2部】石岡プラチナ歌謡ショー



舞踊『ねばねば音頭』を披露する
さくらんぼグループの皆様



『花は咲く』の唄にあわせてフラダンスを披露する
フラガールズの皆様



二代目コロムビア・ローズの智恵子抄を熱唱する
さくらんぼグループ 荒井 米 様



中村美律子の『皷の母』を熱唱する
花むすびの会 大槻 博 様



吹奏楽で懐メロを披露する
ランウインドフィルハーモニーの皆様



舞踊『かんちろりん』を披露する
藤間流勤佐彦会 小松本 恵麗奈 様、土肥 綺音 様



三橋美智也の『武田節』を熱唱する
こだま会 沼田 穂積 様



天童よしみの『珍島物語』を熱唱する
リーディング・アカシア 植木 千寿枝 様



舞踊『いしおかタローちゃん音頭』を披露する
天穂の会の皆様



舞踊『ポンポコニヤ(熊本民謡)』を披露する
藤間流勤佐彦会 藤岡 美都 様、藤岡 美紅 様、木皿 華乃 様

石岡市安全・安心プラチナ大会

「高齢者の詐欺被害防止などを学ぶ」

12月12日（火）ふれあいの里石岡ひまわりの館において「石岡市安全・安心プラチナ大会」を開催し、約280名が参加しました。

昨年に続き2度目の開催となる今回は、茨城県警察本部交通総務課の職員による交通事故防止の寸劇、石岡市消費生活センターの三浦まゆみ氏による悪徳商法撃退方法の講話、交通安全アドバイザーの高橋利子氏による交通事故防止の腹話術、茨城県警察音楽隊による二七電話詐欺被害防止のコントと、昭和の懐かしいメロディの演奏が披露され、参加者からアンコールの声が上がると、盛況のうちにフィナーレを迎えました。



交通事故防止腹話術を披露する交通安全アドバイザー 高橋利子氏



交通事故防止寸劇を披露する茨城県警察本部交通総務課職員のみなさん



二七電話詐欺被害防止寸劇と懐メロ演奏を披露する茨城県警察音楽隊のみなさん



悪徳商法撃退方法の講話を行う消費生活専門員 三浦まゆみ氏

クリスマスの集い

12月23日（土）ふれあいの里石岡ひまわりの館において「クリスマス集い」を開催しました。当日は心身障がい児（者）の方とその家族68世帯152名の方々が参加しました。『光風荘ティンカーベル』によるハンドベルの演奏と合唱では、視覚障がい者による演奏に感動し、涙ぐむ観覧者もいました。また、『けんちゃんとうかいな仲間たち』による腹話術・マジックでは、笑いあり驚きありで、最後はサンタからのプレゼントをもらい、家族で楽しいひと時を過ごしました。



お知らせコーナー

登録ヘルパー募集

あなたの資格を活かして働いてみませんか

- ◆業務内容 介護保険・障害福祉サービス利用者への身体介護・生活援助
- ◆勤務地 石岡市社会福祉協議会八郷支所（石岡市柿岡2155番地）
- ◆勤務時間 平日午前8時30分から午後5時15分までの間でシフト表に基づく（勤務日数と時間はご相談に応じます）
- ◆募集人数 若干名
- ◆資格 ホームヘルパー2級以上または介護職員初任者研修修了者
- ◆年齢 60歳未満の方
- ◆賃金 時給1,200円（交通費として1件訪問につき300円加算）
- ◆応募方法 履歴書（写真貼付）及び資格証明証の写しを持参。書類選考後、面接日時を連絡します。

ひまわり学習塾 塾生募集

新中学1、2年生の塾生を募集します。「勉強につまずいている」「高校進学に向けて勉強したい」など、子ども達の勉強を応援します。

- ◆日時 毎週日曜日 午前10時から正午
- ◆場所 ふれあいの里石岡ひまわりの館
- ◆授業料 無料（教材費が年間3,000円程がかかります）
- ◆内容 教科書に対応した問題集を使用した学習（中学生は英語と数学）、定期テスト対策、夏期・冬期講習などを実施します。

福祉ボランティア募集
（在宅福祉サービス協力会員）

高齢者や障がい者の方が、ご自宅での日常生活を少しでも充実したものとなるよう、お手伝いくださる協力会員の方を募集しています。

- ◆活動内容 生活支援（掃除、洗濯等）、子育て支援、通院及び外出の送迎付き添い
- ◆活動日 月曜～金曜日（祝日、12/28～1/5を除く）
- ◆活動料金 1時間600円（午前9時～午後5時）
※時間外（午前7時～9時、午後5時～7時）は1時間900円／交通費別途支払い
- ◆資格 不問



平成29年度共同募金実績報告

市民の皆さまをはじめ、各学校・事業所・団体の皆さまから深いご理解とご協力を賜り、たくさんの募金が寄せられました。実績を下記のとおりご報告させていただきます。

平成29年度共同募金実績額 14,180,999円 (平成30年1月25日現在)

区分	赤い羽根募金	歳末たすけあい募金
戸別募金	7,532,755円	4,369,650円
大口募金	1,372,000円	—
街頭募金	22,667円	31,365円
学校募金	405,453円	—
職域募金	119,715円	—
イベント募金	64,828円	—
その他	150,934円	111,632円
小計	9,668,352円	4,512,647円
合計	14,180,999円	

◆災害義援金

- ①熊本地震 2,862円 ②福岡県豪雨 53,004円
 ③大分県豪雨 42,789円 ④糸魚川市大規模火災 287円 ⑤秋田県大雨 2,186円

歳末たすけあい募金街頭募金

12月19日(火)、23日(土)イオン石岡店において、社協職員と障がい者支援施設光風荘の利用者と職員(19日)、天理教新治支部会員(23日)による歳末たすけあい街頭募金を行い、合計31,365円の募金が寄せられました。



光風荘利用者と職員のみなさん



天理教新治支部のみなさん



※予約不要

	石岡地区	八郷地区
実施場所	ふれあいの里石岡ひまわりの館	石岡市農村高齢者センター
実施日	3月 9日・23日 4月 6日・20日 5月18日 (金曜日)	3月 1日・15日・29日 4月12日・26日 5月10日・24日 (木曜日)
実施時間	13:00~15:00 (受付:14:30まで)	13:00~15:00 (受付:14:30まで)

善意銀行

感謝の報告

心温まるお気持ちをお寄せいただきまして、誠にありがとうございます。
 お預かりしました善意は、地域福祉の向上のために活用させていただきます。

平成29年12月1日~平成30年1月31日まで (順不同・敬称略)

物品の部

井坂 日出代	石岡市プラチナ応援券 (500円券)	4枚
村山 正忠	テレホンカード	9枚
松田 和子	食糧品	16点
石岡ロータリークラブ	レトルト食品	1箱
	カップラーメン	3箱
	菓子類	2箱
第一生命労働組合 水戸営業職支部 水戸内勤職支部	未使用タオル	280枚
水戸ヤクルト販売株式会社	かき氷機	1台
上田 昭次	玄米	30kg
パールショップともえ石岡店	菓子	1箱
匿名	米	30kg
	食糧品	13点

匿名	食糧品	17点
石岡商工会議所女性会	食品	2箱
	日用品	1箱
	玄米	1袋
匿名	米	20kg
	缶詰	2箱
石岡ライオンズクラブ	レトルト食品	2箱
	菓子類	33箱
匿名	石岡市プラチナ応援券 (500円券)	4枚
デルジャン石岡店	菓子類	1箱
デルジャン小美玉店	菓子	4箱
i・マリッジスクエア	菓子	1箱
山口 周子	食糧品	9点
匿名	食糧品	14点
匿名	缶詰・レトルト食品	1箱



石岡ロータリークラブ 様



水戸ヤクルト販売株式会社 様



第一生命労働組合
水戸営業職支部 様
水戸内勤職支部 様



石岡商工会議所女性会 様



石岡ライオンズクラブ 様

善意銀行 感謝の報告

金 銭 の 部

(順不同・敬称略)

井坂 日出代	10,727円
石岡市城南地区公民館	
けやき学級	212円
ひまわり学級	230円
霞ヶ浦の環境と歴史を学ぶ講座	309円
夏休み親子社会科教室	40円
里山ウォーキング講座	147円
石岡びわの実会	20,000円
石岡市体育協会グラウンドゴルフ部主催 チャリティーグラウンドゴルフ大会	26,355円
石岡市東地区公民館	
すみれ洋裁同好会	5,000円
陶芸せいすい会	5,000円
東木彫り同好会	1,000円
林地区公民館 ゴルフ大会	20,000円
前野 武司	5,000円

石岡市国府地区公民館	
歴史探訪11/17分	355円
歴史探訪12/8分	24円
ひまわり学級12/7分	33円
けやき学級12/13分	33円
中央公民館まつりバザー収益金	
パッチワーク同好会	10,000円
革工芸同好会	5,000円
木工を楽しむ会	5,200円
やさと陶芸同好会	10,100円
中央公民館後期講座 文楽鑑賞教室	160円
石岡商工会議所女性会	26,577円
萩原時計店	4,130円
子育てサークル・おひさまとたんぽぽの会	17,000円
1ヶ月1分のお仕事を教える会 関 健司	9,293円
常陸獅子彫刻伝修館	295円

使用済・未使用切手

◆いしおか俳句の会 ◆石岡商工会議所女性会 ◆狩谷電機株式会社 ◆前田恭子 ◆公益社団法人石岡地方広域シルバー人材センター ◆匿名

問い合わせ・申し込み
(土、日、祝日を除く)

社会福祉法人 石岡市社会福祉協議会

本 所

〒315-0009
茨城県石岡市大砂10527番地6
ふれあいの里石岡ひまわりの館内
TEL 0299 (22) 2411(代)
FAX 0299 (22) 2440
E-mail : shakyou@atlas.plala.or.jp



八 郷 支 所

〒315-0116
茨城県石岡市柿岡2155番地
石岡市農村高齢者センター内
TEL 0299 (36) 4311
FAX 0299 (36) 4312
E-mail : ishishakyo.yasato@orange.plala.or.jp

